

## グアムでの思い出

宍戸 萌乃

私がグアムへの派遣プログラムを知ったのは学校で配布されたプリント。最初、そのプリントを見たときに応募してみたいな、という気持ちと自分には無理、という二つの気持ちがあった。でも、だんだんやってみたい、後で後悔なんかしたくないという気持ちが強くなり応募することにした。面接では何人かの人と一緒にになった。正直、面接が終わったとき「自分なんかじゃやっぱり無理だ。」と思っていたので、選ばれたときはすごく嬉しかった。最初は大変だと思っていたオリエンテーションもやっていくうちに楽しくなっていた。



そしてあっという間に迎えた 3 月 25 日。空港に着いたときには英語が話せるのか、理解できるのかなどとマイナスなことを考えてしまいすごく不安だった。でも、ホストファミリーと会った瞬間そんな不安はすぐに吹き飛んでしまった。みんなすごく親切で、何よりフレンドリーで昔から知っているような感じで接してくれた。

その日は恋人岬へ行った。車の中で Zea といろいろなことを話した。私が

Zea の言っていることが理解できていないときは他の言い方をしてくれたり、動作をつけてわかりやすくしてくれた。だから、英語での会話は大変だったけどぜんぜん苦にはならなかった。

グアムに来てからは 1 日たつのがすごく早く感じた。私が 1 番楽しかったことは、買い物をする。最初はお金の出し方とかよく分からなくてすごく不安だったけど、Zea がいつも手伝ってくれたから何にも心配は要らなかった。私も Zea も買い物は好きだったから 2 人とも「これすごい!!」とか言って盛り上がった。グアムのお店には、日本にはないような大きなサイズのものが売っていてすごくおもしろかった。写真を撮っているときに、知らないおばさんが「写真とりましょうか??」と言ってくれてすごく親切だな、と思った。そして、あっという間に最終日を迎えた。ホストファミリーの前では泣かないと決めていたのにいっぱい泣いてしまった。泣いていた私にファミリーは「4 月にまた会えるよ」「ここはあなたの 2 個目の家だよ」などと言って慰めてくれた。

グアムで過ごした 6 日間、私はたくさんのことを学べた。こんな素晴らしい体験ができたのは自分たちの力だけではなく、いろいろ人たちの支えがあったからだと思う。今まで支えてきてくださった皆様、本当にありがとうございました。